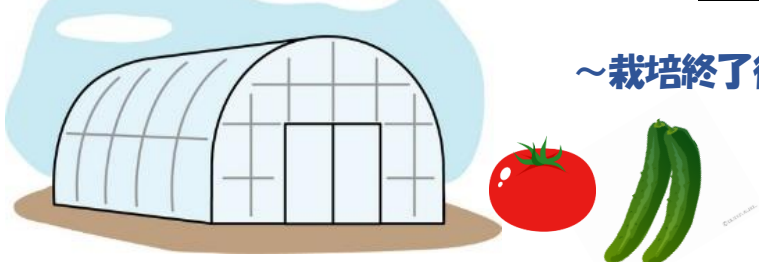




● 施設栽培 (トマトやキュウリなど) の蒸し込み処理による害虫防除について ●



～栽培終了後には、ハウスを密閉して、コナジラミ類やアザミウマ類、ハモグリバエ類などの害虫防除を実施しましょう!～



施設栽培のコナジラミ類やアザミウマ類は作物への食害・吸汁による被害を起こし問題となりますが、多くのウイルス病の媒介虫としても重要性が高い害虫です。

コナジラミ類はトマトの黄化葉巻病ウイルス(TYLCV)やキュウリ、メロンで発生する退緑黄化病ウイルス(CCYV)などを媒介します。また、アザミウマ類はトマトやピーマンなどで発生する黄化えそ病ウイルス(TSWV)やメロンやキュウリで発生する黄化えそ病ウイルス(MYSV)を媒介し生育や収量に影響を与えます。

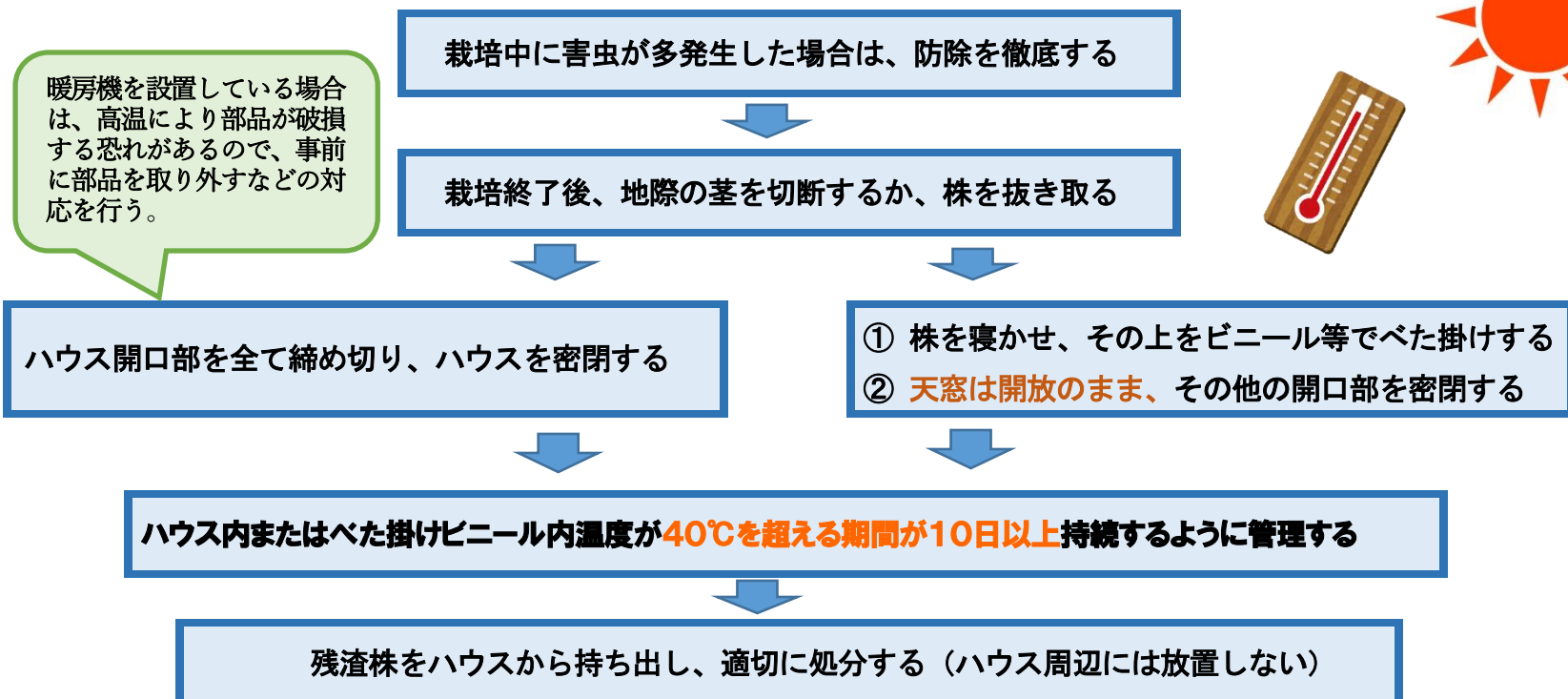
さらに、ハモグリバエ類も幼虫が葉内を食害し (いわゆる絵かき虫)、生育や収量に影響を与えます。

これらの対策として、栽培初期から粒剤による土壌処理や生育中の薬剤散布などによる害虫防除が重要となりますが、施設栽培の終了した後に、生きたまま害虫を施設外に逃がさないことも重要な対策になります。

このため、下記を参考に、薬剤による害虫防除や栽培終了後のハウス蒸し込み処理などを徹底し、害虫の死滅を図ってください (ハダニ類は高温に強いために、蒸し込み処理の効果があまり期待できません)。その際、地域や産地全体が共同で対策にあたるとさらに効果が高くなります。

<害虫をハウス外に逃がさないために>

- 1 作物栽培中に、害虫の発生量が多い場合は、野外へ飛び出す個体数が多くなるのが予想されますので、栽培が終了するまでは薬剤防除を実施してください。
- 2 栽培終了後の蒸し込み作業は、栽培作物の株元を切断するか又は抜き取った後に、ハウスを密閉し、目安としてハウス内温度が40℃を超える期間が10日以上持続するように管理することが必要です。
- 3 ハウス内にある機材類で、高温により障害の出るものは、持ち出すか、遮光を行うなどの処置が必要です。特に、夏季の晴天時には施設内が70℃くらいまで上昇する場合がありますので、特に注意してください。
- 4 また、効果が安定する別の方法として、切断するか又は抜き取った株を寝かせて並べ、その上に透明ビニールをべた掛けすることで茎葉部分の温度を上昇させる方法があります。その場合、天窓を開放してハウス内の急激な温度の上昇を抑制することができます。



暖房機を設置している場合は、高温により部品が破損する恐れがあるので、事前に部品を取り外すなどの対応を行う。



- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。